

＜今日の説教のポイント 創世記 29 章 1～30 節＞

①不可解なベテル(28 章)の出来事。あのヤコブを神様はなぜ？

ヤコブは兄エサウと父イサクをだまして長子の特権を奪い取った人物です(25, 27 章)。しかし、兄の報復を恐れて逃亡したヤコブに、神様はベテルで祝福と守りの約束を与えられました(28 章 10 節以下)。不可解至極です。私たちにできることは、その後彼はどうなっていくのか、何が起こるのかを追い続けることです。そこから神様の真の御旨を聞き取ることです。この夏の礼拝で私たちが取り組むことです。

②人が変わったような 29 章前半のヤコブ。神様の御心を知ったから！

再び伯父ラバンの所に着いたヤコブの姿は、かつての狡猾なヤコブの姿とどこか違います。井戸の石をどけ、羊に水を飲ませてやり、目的地に着いたことで感極まって泣き出します。これには神様と出会って神様の約束と守りを知らされたことが関係しているでしょう。しかし、事態は思わぬ試練の方向に向かいます。そこで何を悟るかが大事なのです。

③ラバンにだまされるヤコブ。が、それは彼がエサウにやったこと！

喜びと明るさで満ちた 29 章前半。しかしそれはラバンの思いがけない策略で一転します。「なぜ、私をだましたのですか」(25)とヤコブが問うと、ラバンは「我々の所では、妹を姉より先に嫁がせることはしないのだ」(26)と答えました。私たちは気づかなくてはなりません、これはヤコブがエサウをだまして長子の特権を奪い取った出来事と同じではないかと(「だました」(25)は「策略」(27:35)と同じ語、「姉」は「長子」(25:31)に対応)。「人は、自分の蒔いたものをまた刈り取ることになるのです」(ガラテヤ 6:7)。ヤコブは気づいたでしょうか、自分がラバンと同じことをし、それでどれだけエサウが悲しんだかを。彼はこの出来事がもたらした暗さを負って、ラバンの家でこの後長きをを過ごします。そしてついに忘れていた一番大事な問題、エサウとの和解に向かうのです(31:3)。自分の罪の気づきを経て、神の赦しの恵みを心から感謝する者になれる。そのことを教えられるヤコブ物語です。